

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100345		
法人名	社会福祉法人南郷福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホームみのりの家 すみれ棟		
所在地	宮城県遠田郡美里町木間塚字原田5番地		
自己評価作成日	平成28年11月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成28年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々やご家族の協力を得ながら地域資源を有効に活用させて頂いております。入居者の皆様、一人ひとりの残存機能を大切に、入居者様も職員も笑顔で明るくゆったりとした日々を過ごしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「みのりの家」は、同法人の運営する特別養護老人ホーム、ケアハウスに隣接し、行事や職員の研修など合同で取組み交流している。協力病院の南郷病院も隣接しており、医療連携も密接である。法人は運営経験が豊かで、職員はベテランが多く、利用者は安心してゆったり過ごしている。ホーム内の清掃・整頓は行き届き、利用者の移動や安全が確保され、心地よく過ごせる空間になっている。利用者と共に準備したクリスマスツリーやリースを飾り、季節を楽しむ取組みをしている。居室には障子があり、和風の馴染みのある落ち着いた空間になっている。トイレも2部屋に1ヶ所の配置で、自立支援につながる設備の工夫がある。2ヶ月に1回発行する「みのりだより」には多彩な行事に参加し、にこやかに暮らす利用者の写真が掲載されており、家族の情報源となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 認知症高齢者GHみのりの家 ）「ユニット名 すみれ棟」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「みのりの家」及び各棟毎の理念を掲示し毎月のスタッフ会議時に全員で唱和し常に念頭に入れ実践に繋げている	「明るく、楽しく、のんびり」「笑いあって、仲良く楽しくみんなで」のユニットごとの理念を掲示し、スタッフ会議で唱和して確認している。職員は楽しく働くことに心がけ、利用者が楽しく笑いあって過ごせるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域資源を活用すると共に、地域の方々のご協力の元地域行事へ参加する事にて入居者と地域の方々との触れ合を大切にしている	法人は町内会に加入し、地域の消防団員として活動している。地域の避難訓練、一斉清掃に参加している。毎月、民話などのボランティアが訪問している。学校行事に出向いたり、町内文化祭に書道など出展参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加する事により、地域の方々に認知症への理解を頂いたり、法人発行の広報誌へ当事業所の概要及び認知症についての記事を載せる事にて地域の方々に向け発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域・ご家族・入居者代表、市町村担当者が参加し年6回開催している。活動内容・運営状況・ご家族様アンケート結果・外部評価等を報告しており参加者からの意見は真摯に受け止めサービス向上に活かしている	町職員、地域包括職員、地域住民、利用者とその家族の参加で、年6回開催し、毎回認知症について学習し理解を深めてもらう取組をしている。職員の負担軽減に“受診は家族だけの付添いではどうか”との提案があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、事故発生時には速やかに書面にての報告・空き状況・待機人数の確認や災害時の取り組みにつき報告・確認等日頃から密に連絡し合い協力関係が築けるよう取り組んでいる	町職員が運営推進会議に出席し、情報交流している。年2回町主催のグループホーム報告会に参加し新施設の見学などした。利用者の相談、事故報告などしており町からも台風時などに安否確認があり、協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となるようなベット柵や施錠はしておらずスタッフ会議や法人全体の内部研修時に学びながら理解を深め、日々、身体拘束をしないケアを行っている	法人全体と事業所として各年1回身体拘束をしないケアについての研修を実施している。職員は利用者との関係を深め、声掛けを工夫し、自由に過ごせるように支援している。日中、玄関は施錠せず隣接の法人の施設や隣接する農協などの協力体制もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議や法人全体の内部研修時に学ぶ機会を持ち、職員一人ひとりがお互いの言葉や態度に注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ会議や法人全体の内部研修時に学ぶ機会を持っている。尚、現在、成年後見人制度を利用されている入居者様もおります		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	諸書類の説明・不安や疑問点を聞き入れ納得後に契約をして頂き、解約時にも十分な話し合いを行っている。また、介護度や法律改定時には書面等で確認し納得した上でご利用して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会や面会時には気軽に意見が話せる雰囲気となっており、年一回アンケートを実施している。そこで出た意見はスタッフ会議や運営推進委員会時に報告し今後の支援に反映している	忘年会など家族参加の行事の折や、面会時に、職員から声掛けするようにして意見要望を聞いている。年1回のアンケートを実施し支援に生かしている。電話でも、意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員間で話しやすい職場作りに心がけている。また、毎月のスタッフ会議にて出た意見やアイデア等は全員で検討後介護ケアや運営に活かしている	毎月のスタッフ会議、連絡ノートで意見交換している。管理者は勤務体制の要望など話しやすいよう心掛けている。居室の可動ベッドへの変更、便座への手すりの設置など実現した。職員が要望した研修も実施された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は全職員の力量・勤務状況を把握し生き生きと仕事ができるよう環境及び給料面の整備に心がけている。また、国家資格の受験・研修会に参加するよう声掛けを怠らない様注意を払っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員全員の力量を把握すると共に、それを補い、向上するために研修会に参加する機会を与え、質の良いサービスが提供できるよう取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会が主催する交流会や町内のグループホーム会議への参加・外部研修や実践報告会に参加することにて他業者との交流の場を確保すると共に、その後のネットワークづくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人及びご家族の意見に傾聴し、今のようなケアを必要としているのかを把握しながら入居者に寄り添い信頼関係を築き、なんでも話しやすい雰囲気作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査や契約時時に不安・困っている事・要望を受け止め、これからどのような支援を行って行くか詳しく説明する事にて信頼関係を築き、面会時には積極的に入居者様の様子を伝えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人が支障となっている所を見極めそれを補うためにはどのような支援が必要なのかご本人・ご家族へ説明・納得して頂き、自立支援を念頭にケアプランを作成し、その人らしい生活が送れる様支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	モップかけ・洗濯物たたみ・盛り付け等出来る事を職員と一緒に頂く事にて暮らしを共にする同士の関係作りを行い、お手伝いして頂いた後にはお礼の言葉を述べている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の様子をお便りやみのりだよりにてご家族へ報告している。相談事があればその都度対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所だった人が面会に来られたり、こちらから訪問している。また、馴染みの店に職員やご家族と一緒に買い物に出掛けている	墓参りなど家族との外出支援をしている。身内、友人が誘い合って来訪している。馴染みの店に買い物に出掛けて知人との出会いを楽しんでいる人もいる。通院時や隣接の施設に入居している知人との交流もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格を把握した上で、入居者同士の関係を把握し食事の席を共にしたり役割り活動と一緒にできるように把握する等し良好な関係づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には必要に応じてアセスメントや家族構成等をご家族の了承を得た上で次に入所される所へお渡しし安心して生活が送れる様支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時にご本人及びご家族の意向を把握しケアプランに取り入れている。意思疎通が困難な場合は介護支援専門員が代弁者となりご本人の意向が聞き出せるよう努めケアプランに取り入れている	職員は利用者2人を担当し、表情やしぐさを観察し、ゆったりした対応に心掛け、声掛けを工夫し意向の把握に努めている。入浴介助などの個別対応の機会にもコミュニケーションをとっている。家族からも、情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実態調査時に生活歴・馴染みの暮らし方・生活環境等をご本人・ご家族より聞き入れると共にご家族の承諾の上、これまで利用されていた事業所より情報収集しております		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らし方はその方のペースにて過ごして頂いております。身体状況は日々のケース記録に残し、個々の残存機能を把握し職員間で共有し統一ケアを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	支障となっている事につきご本人及びご家族の意向を聞き入れ自立支援に向けたケアプランを作成し、モニタリングは基本3カ月、心身状態変化時はその都度行い、現状に合った介護計画の見直しを行っている	介護計画は3ヶ月に1回見直している。家族には毎月報告している。家族、担当医、看護師、必要に応じ法人の栄養士の意見で介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・気づき・工夫は「ケース記録」へ実践・結果は「ケアプランチェック表」に記入し職員間で共有し支援している。モニタリングは基本3カ月・異常時はその都度行い介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の心身状態の変化により新たにニーズが発生した場合はその都度ケアカンファレンスを行い、再アセスメントしケアプランを作成しそれに基づき支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着の交流でボランティア・文化祭・お祭り等に参加したり、地域の方々の協力の元、町の防災訓練に参加する事にて安全で豊かな生活が送れる様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望を最大限に受け止め、かかりつけ医より紹介状を頂いた上で協力病院以外の病院も受診している。専門医とかかりつけ医及び当事業所との連絡も密にできており適切な医療が受けられている	遠方の心療内科などでも希望すれば、かかりつけ医として受診支援している。受診結果の情報は家族と共有し、日々のケアに活かしている。常勤の看護師が健康管理をして、協力医などと連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いなほの里の看護師が週三回出向しており、入居者の日常の様子・健康状況等を細かに報告・指示を受けている。また、入居者に異変があった場合は直ぐに駆けつけ指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は書面にて入居者の情報提供を行っている。また、入院中は職員が病院に出向き状態を確認している。退院時には家族・担当医・事業所が密に話し合い、退院後の生活が安心して送れる様にしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人の意向を十分にくみ取り、家族・担当医・事業所間での話し合いを密にとり合い、事業所として出来る事と出来ない事を明確にししながら意向に沿った支援を行っている	「医療連携体制及びターミナル(看取り)に関する意思確認書」をもとに説明し同意書で意思確認をしている。変化があった際にはその都度確認し、家族や協力医と連携を図り対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は入居者の緊急時(転倒・発作・誤嚥等)の初期対応や応急手当が行えるよう学習会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定訓練として法人全体で年二回・事業では毎月一回(電話連絡)災害マニュアルに沿って行っている。災害時には法人・消防団・協力病院・農協や地域住民にも協力が得られるよう協力体制が構築している	防災訓練を毎月行い設備の使用方法を確認している。年2回法人全体で夜間想定を含め避難訓練をしている。地域の防災訓練に参加し消防団、地域との協力関係もある。備蓄は3日～10日分ある。	行政と相談をして水害対策のマニュアルを準備し、災害に備えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症であっても一人の人間であり先輩である事を忘れず、一人ひとりの性格・こだわりを理解し人格・プライバシーが損なわれないよう言葉づかいに気を配りその場に合った対応を行っている	プライバシー保護について、法人全体で年1回の研修、事業所でも年1回研修している。希望の呼称で声掛けし、必要に応じ専門医とも相談して対応している。トイレ誘導の際には耳元での声掛けなどプライバシーの確保に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない表情や仕草より思いをくみ込んだり、職員からの問いかけによりご本人の意思が表現出来る様工夫している。また、二者選択などにより自己決定が出来る様働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでの生活習慣を大切にし、その方のペースにて過ごして頂いている。また、パーソン・センタード・ケアを重視しその人らしさを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみができる様、自分の好きな服を選んで着て頂いている。自己選択出来ない方にはその方らしい装いを提供している。毎日、洗顔クリームで洗い乳液まで使用している方もおります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季折々の食材を使用した献立や昔ながらの季節料理を提供している。時には好みを聞き出し行事食等に取り入れている。また、出来る範囲での準備や片付けを行って頂いている。	法人の管理栄養士がメニューを作り、職員が地場産品を生かして調理し、行事食なども楽しんでいる。利用者は準備、食材の買い物、片づけなどに参加している。栄養管理で元気になった人や糖尿病の薬が減った人もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士のメニューを基に食事を提供しており、栄養バランスは図られている。また、十分な水分補給に努め、身体状況に応じた形態で提供し摂取量にも配慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き・うがいはその方の能力に応じた方法で口腔ケアに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや仕草より察知し何気なく声掛けをトイレにて排泄をして頂く事にて自立に向けた支援を行っている	各自の排泄パターンを確認し、仕草などに注意してトイレでの自立に向けた支援をしている。居室と居室の間にトイレがあり、夜も利用しやすくなっている。便秘対策にはヨーグルトや水分摂取、ラジオ体操に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日を通して十分な水分補給に努め記録に留めている。また、ラジオ体操や体を動かす事に心がけたり、毎日乳製品を提供し、食物繊維の多い食材を取り入れた食事の提供にて便秘の予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は一日おきとしているが、希望時にはいつでも入浴が可能であり、日替わりで入浴剤を使用し温泉気分を楽しんで頂いている。入浴拒否が見られた場合は無理強いをせず翌日に入浴して頂いている	2日に1回の入浴を実施しているが、希望があれば随時対応する。日替わりの入浴剤を楽しみ、声掛けの工夫で心地よく入浴している。脱衣所への手すりの設置、滑り止めマットの使用など安心して入浴できる工夫がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握しゆったりと生活して頂いている。また、日中散歩したり体を動かす活動を多く取り入れる事にて自然な眠りが出来る様支援し、就寝時間は個人のペースにて休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのお薬手帳を準備・処方箋を使用し常に職員が把握している。特に薬が変わった時は副作用や用法・用量を申し送りしている。常に服薬の支援と副作用の観察に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力量に応じた役割りを職員と一緒に行って頂く事にて張り合いのある生活が送れる様支援している。また、誕生会や月毎の行事を企画・参加して頂く事にて楽しんで頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員と一緒にドライブや買い物・催し物等に出掛けたり、ご家族と合同の忘年会へ参加されている。また、ご本人の希望に沿い地域行事に参加したり、ご家族の協力にて外出等も楽しまれている	年間計画をたて花見に加護坊山や松山のコスモス見物などに外出している。農協のお祭り、町の文化祭など見学している。法人の施設内の広い庭の散歩などしている。同法人特養の「スナックかかし」でそれぞれが好きな物を注文し楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様のお金は預かり金として管理しておりますが、買い物へ出掛けたり、併設施設でのスナックかかしでの支払いは能力に応じてご本人に支払って頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの電話には直接話して頂いており、家族から手紙が来た場合はご本人へお渡しすると共に読めない方には職員が代読し・年賀状の郵送・本人からご家族への手紙は預かり郵送している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全安心に配慮し入居者が落ち着いて暮らせるよう音や採光に配慮している。常に窓のカーテンを開け外の様子や天候が分かるようにしている。24時間、換気と温室調整には気を配り快適に過ごして頂いている。また、季節感のある装飾や草花を飾っている	リビングは天井が高く、開放的で明るく、大きいガラス窓より季節ごとの庭の花など眺める事が出来る。清掃・整頓が行き届き、床暖房が設備され温・湿度も快適に管理されており、利用者はゆっくりお茶を楽しんでいる。テレビでは懐かしい歌やドラマが流れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・娛樂室のペースを設けており、一人で過ごされたり気の合った方同士で過ごされたりと思いいに過ごせる居場所作りに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の延長のように安心して暮らして頂けるように、ご家族と相談し使い慣れた筆筒や位牌・昔の写真を飾ったり、馴染みの小物を置く事にて、ご本人が居心地よく過ごせるよう工夫している	居室にはベッド、洗面台が備わっている。掃出し窓の障子、押入れの襖などから和の趣きを感じられ、落ち着いた空間になっている。位牌、テーブルなど馴染みのものが持ち込まれ家族の写真や自作の書道など貼られてその人らしい暮らしがうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手すりがあり、トイレは洋式トイレに補助具・浴室の脱衣場にも補助具がついており残存機能を生かし出来る所が安全に自立した生活が送れるような環境作りに工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100345		
法人名	社会福祉法人南郷福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホームみのりの家 すずらん棟		
所在地	宮城県遠田郡美里町木間塚字原田5番地		
自己評価作成日	平成28年11月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成28年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々やご家族の協力を得ながら地域資源を有効に活用させて頂いております。入居者の皆様、一人ひとりの残存機能を大切に、入居者様も職員も笑顔で明るくゆったりとした日々を過ごしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「みのりの家」は、同法人の運営する特別養護老人ホーム、ケアハウスに隣接し、行事や職員の研修など合同で取組み交流している。協力病院の南郷病院も隣接しており、医療連携も密接である。法人は運営経験が豊かで、職員はベテランが多く、利用者は安心してゆったり過ごしている。ホーム内の清掃・整頓は行き届き、利用者の移動や安全が確保され、心地よく過ごせる空間になっている。利用者と共に準備したクリスマスツリーやリースを飾り、季節を楽しむ取組みをしている。居室には障子があり、和風の馴染みのある落ち着いた空間になっている。トイレも2部屋に1ヶ所の配置で、自立支援につながる設備の工夫がある。2ヶ月に1回発行する「みのりだより」には多彩な行事に参加し、にこやかに暮らす利用者の写真が掲載されており、家族の情報源となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 認知症高齢者GHみのりの家 ）「ユニット名 すずらん棟」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「みのりの家」及び各棟毎の理念を掲示し毎月のスタッフ会議時に全員で唱和し常に念頭に入れ実践に繋げている	「明るく、楽しく、のんびり」「笑いあって、仲良く楽しくみんなで」のユニットごとの理念を掲示し、スタッフ会議で唱和して確認している。職員は楽しく働くことに心がけ、利用者が楽しく笑いあって過ごせるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域資源を活用すると共に、地域の方々のご協力の元地域行事へ参加する事にて入居者と地域の方々との触れ合を大切にしている	法人は町内会に加入し、地域の消防団員として活動している。地域の避難訓練、一斉清掃に参加している。毎月、民話などのボランティアが訪問している。学校行事に向いたり、町内文化祭に書道など出展参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加する事により、地域の方々に認知症への理解を頂いたり、法人発刊の広報誌へ当事業所の概要及び認知症についての記事を載せる事にて地域の方々に向け発信している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域・ご家族・入居者代表、市町村担当者が参加し年6回開催している。活動内容・運営状況・ご家族様アンケート結果・外部評価等を報告しており参加者からの意見は真摯に受け止めサービス向上に活かしている	町職員、地域包括職員、地域住民、利用者とその家族の参加で、年6回開催し、毎回認知症について学習し理解を深めてもらう取組をしている。職員の負担軽減に“受診は家族だけの付添いではどうか”との提案があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、事故発生時には速やかに書面にての報告・空き状況・待機人数の確認や災害時の取り組みにつき報告・確認等日頃から密に連絡し合い協力関係が築けるよう取り組んでいる	町職員が運営推進会議に出席し、情報交流している。年2回町主催のグループホーム報告会に参加し新施設の見学などした。利用者の相談、事故報告などしており町からも台風時などに安否確認があり、協力関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となるようなベット柵や施錠はしておらずスタッフ会議や法人全体の内部研修時に学びながら理解を深め、日々、身体拘束をしないケアを行っている	法人全体と事業所として各年1回身体拘束をしないケアについての研修を実施している。職員は利用者との関係を深め、声掛けを工夫し、自由に過ごせるように支援している。日中、玄関は施錠せず隣接の法人の施設や隣接する農協などの協力体制もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議や法人全体の内部研修時に学ぶ機会を持ち、職員一人ひとりがお互いの言葉や態度に注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフ会議や法人全体の内部研修時に学ぶ機会を持っている。尚、現在、成年後見人制度を利用されている入居者様もおります		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	諸書類の説明・不安や疑問点を聞き入れ納得後に契約をして頂き、解約時にも十分な話し合いを行っている。また、介護度や法律改定時には書面等で確認し納得した上でご利用して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会や面会時には気軽に意見が話せる雰囲気となっており、年一回アンケートを実施している。そこで出た意見はスタッフ会議や運営推進委員会時に報告し今後の支援に反映している	忘年会など家族参加の行事の折や、面会時に、職員から声掛けするようにして意見要望を聞いている。年1回のアンケートを実施し支援に生かしている。電話でも、意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員間で話しやすい職場作りに心がけている。また、毎月のスタッフ会議にて出た意見やアイデア等は全員で検討後介護ケアや運営に活かしている	毎月のスタッフ会議、連絡ノートで意見交換している。管理者は勤務体制の要望など話しやすいよう心掛けている。居室の可動ベッドへの変更、便座への手すりの設置など実現した。職員が要望した研修も実施された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は全職員の力量・勤務状況を把握し生き生きと仕事ができるよう環境及び給料面の整備に心がけている。また、国家資格の受験・研修会に参加するよう声掛けを怠らない様注意を払っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員全員の力量を把握すると共に、それを補い、向上するために研修会に参加する機会を与え、質の良いサービスが提供できるよう取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会が主催する交流会や町内のグループホーム会議への参加・外部研修や実践報告会に参加することにて他業者との交流の場を確保すると共に、その後のネットワークづくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人及びご家族の意見に傾聴し、今どのようなケアを必要としているのかを把握しながら入居者に寄り添い信頼関係を築き、なんでも話しやすい雰囲気作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査や契約時時に不安・困っている事・要望を受け止め、これからどのような支援を行って行くか詳しく説明する事にて信頼関係を築き、面会時には積極的に入居者様の様子を伝えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人が支障となっている所を見極めそれを補うためにはどのような支援が必要なのかご本人・ご家族へ説明・納得して頂き、自立支援を念頭にケアプランを作成し、その人らしい生活が送れる様支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	モップかけ・洗濯物たたみ・盛り付け等出来る事を職員と一緒に頂く事にて暮らしを共にする同士の関係作りを行い、お手伝いして頂いた後にはお礼の言葉を述べている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の様子をお便りやみのりだよりにてご家族へ報告している。相談事があればその都度対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所だった人が面会に来られたり、こちらから訪問している。また、馴染みの店に職員やご家族と一緒に買い物に出掛けている	墓参りなど家族との外出支援をしている。身内、友人が誘い合って来訪している。馴染みの店に買い物に出掛けて知人との出会いを楽しんでいる人もいる。通院時や隣接の施設に入居している知人との交流もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格を把握した上で、入居者同士の関係を把握し食事の席を共にしたり役割り活動を一緒にできるように把握する等し良好な関係づくりに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には必要に応じてアセスメントや家族構成等をご家族の了承を得た上で次に入所される所へお渡しし安心して生活が送れる様支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時にご本人及びご家族の意向を把握しケアプランに取り入れている。意思疎通が困難な場合は介護支援専門員が代弁者となりご本人の意向が聞き出せるよう努めケアプランに取り入れている	職員は利用者2人を担当し、表情やしぐさを観察し、ゆったりした対応に心掛け、声掛けを工夫し意向の把握に努めている。入浴介助などの個別対応の機会にもコミュニケーションをとっている。家族からも、情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の実態調査時に生活歴・馴染みの暮らし方・生活環境等をご本人・ご家族より聞き入れると共にご家族の承諾の上、これまで利用されていた事業所より情報収集しております		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らし方はその方のペースにて過ごして頂いております。身体状況は日々のケース記録に残し、個々の残存機能を把握し職員間で共有し統一ケアを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	支障となっている事につきご本人及びご家族の意向を聞き入れ自立支援に向けたケアプランを作成し、モニタリングは基本3カ月、心身状態変化時はその都度行い、現状に合った介護計画の見直しを行っている	介護計画は3ヶ月に1回見直している。家族には毎月報告している。家族、担当医、看護師、必要に応じて法人の栄養士の意見で介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子・気づき・工夫は「ケース記録」へ実践・結果は「ケアプランチェック表」に記入し職員間で共有し支援している。モニタリングは基本3カ月・異常時はその都度行い介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の心身状態の変化により新たにニーズが発生した場合はその都度ケアカンファレンスを行い、再アセスメントしケアプランを作成しそれに基づき支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着の交流でボランティア・文化祭・お祭り等に参加したり、地域の方々の協力の元、町の防災訓練に参加する事にて安全で豊かな生活が送れる様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望を最大限に受け止め、かかりつけ医より紹介状を頂いた上で協力病院以外の病院も受診している。専門医とかかりつけ医及び当事業所との連絡も密にできており適切な医療が受けられている	遠方の心療内科などでも希望すれば、かかりつけ医として受診支援している。受診結果の情報は家族と共有し、日々のケアに活かしている。常勤の看護師が健康管理をして、協力医などと連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いなほの里の看護師が週三回出向しており、入居者の日常の様子・健康状況等を細かに報告・指示を受けている。また、入居者に異変があった場合は直ぐに駆けつけ指示を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は書面にて入居者の情報提供を行っている。また、入院中は職員が病院に出向き状態を確認している。退院時には家族・担当医・事業所が密に話し合い、退院後の生活が安心して送れる様にしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人の意向を十分にくみ取り、家族・担当医・事業所間での話し合いを密にとり合い、事業所として出来る事と出来ない事を明確にししながら意向に沿った支援を行っている	「医療連携体制及びターミナル(看取り)に関する意思確認書」をもとに説明し同意書で意思確認をしている。変化があった際にはその都度確認し、家族や協力医と連携を図り対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は入居者の緊急時(転倒・発作・誤嚥等)の初期対応や応急手当が行えるよう学習会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定訓練として法人全体で年二回・事業では毎月一回(電話連絡)災害マニュアルに沿って行っている。災害時には法人・消防団・協力病院・農協や地域住民にも協力が得られるよう協力体制が構築している	防災訓練を毎月行い設備の使用方法を確認している。年2回法人全体で夜間想定を含め避難訓練をしている。地域の防災訓練に参加し消防団、地域との協力関係もある。備蓄は3日～10日分ある。	行政と相談をして水害対策のマニュアルを準備し、災害に備えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症であっても一人の人間であり先輩である事を忘れず、一人ひとりの性格・こだわりを理解し人格・プライバシーが損なわれないよう言葉づかいに気を配りその場に合った対応を行っている	プライバシー保護について、法人全体で年1回の研修、事業所でも年1回研修している。希望の呼称で声掛けし、必要に応じ専門医とも相談して対応している。トイレ誘導の際には耳元での声掛けなどプライバシーの確保に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない表情や仕草より思いをくみ込んだり、職員からの問いかけによりご本人の意思が表現出来る様工夫している。また、二者選択などにより自己決定が出来る様働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでの生活習慣を大切にし、その方のペースにて過ごして頂いている。また、パーソン・センタード・ケアを重視しその人らしさを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみが出る様、自分の好きな服を選んで着て頂いている。自己選択出来ない方にはその方らしい装いを提供している。毎日、洗顔クリームで洗い乳液まで使用している方もおります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季折々の食材を使用した献立や昔ながらの季節料理を提供している。時には好みを聞き出し行事食等に取り入れている。また、出来る範囲での準備や片付けを行って頂いている。	法人の管理栄養士がメニューを作り、職員が地場産品を生かして調理し、行事食なども楽しんでいる。利用者は準備、食材の買い物、片づけなどに参加している。栄養管理で元気になった人や糖尿病の薬が減った人もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士のメニューを基に食事を提供しており、栄養バランスは図られている。また、十分な水分補給に努め、身体状況に応じた形態で提供し摂取量にも配慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き・うがいはその方の能力に応じた方法で口腔ケアに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや仕草より察知し何気なく声掛けをしトイレにて排泄をして頂く事にて自立に向けた支援を行っている	各自の排泄パターンを確認し、仕草などに注意してトイレでの自立に向けた支援をしている。居室と居室の間にトイレがあり、夜も利用しやすくなっている。便秘対策にはヨーグルトや水分摂取、ラジオ体操に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日を通して十分な水分補給に努め記録に留めている。また、ラジオ体操や体を動かす事に心がけたり、毎日乳製品を提供し、食物繊維の多い食材を取り入れた食事の提供にて便秘の予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は一日おきとしているが、希望時にはいつでも入浴が可能であり、日替わりで入浴剤を使用し温泉気分を楽しんで頂いている。入浴拒否が見られた場合は無理強いをせず翌日に入浴して頂いている	2日に1回の入浴を実施しているが、希望があれば随時対応する。日替わりの入浴剤を楽しみ、声掛けの工夫で心地よく入浴している。脱衣所への手すりの設置、滑り止めマットの使用など安心して入浴できる工夫がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握しゆったりと生活して頂いている。また、日中散歩したり体を動かす活動を多く取り入れる事にて自然な眠りが出来る様支援し、就寝時間は個人のペースにて休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのお薬手帳を準備・処方箋を使用し常に職員が把握している。特に薬が変わった時は副作用や用法・用量を申し送りしている。常に服薬の支援と副作用の観察に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力量に応じた役割りを職員と一緒にやって頂く事にて張り合いのある生活が送れる様支援している。また、誕生会や月毎の行事を企画・参加して頂く事にて楽しんで頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒にドライブや買い物・催し物等に出掛けたり、ご家族と合同の忘年会へ参加されている。また、ご本人の希望に沿い地域行事に参加したり、ご家族の協力にて外出等も楽しまれている	年間計画をたて花見に加護坊山や松山のコスモス見物などに外出している。農協のお祭り、町の文化祭など見学している。法人の施設内の広い庭の散歩などしている。同法人特養の「スナックかかし」でそれぞれが好きな物を注文し楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様のお金は預かり金として管理しておりますが、買い物へ出掛けたり、併設施設でのスナックかかしでの支払いは能力に応じてご本人に支払って頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの電話には直接話して頂いており、家族から手紙が来た場合はご本人へお渡しすると共に読めない方には職員が代読し・年賀状の郵送・本人からご家族への手紙は預かり郵送している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全安心に配慮し入居者が落ち着いて暮らせるよう音や採光に配慮している。常に窓のカーテンを開け外の様子や天候が分かるようにしている。24時間、換気と温室調整には気を配り快適に過ごして頂いている。また、季節感のある装飾や草花を飾っている	リビングは天井が高く、開放的で明るく、大きいガラス窓より季節ごとの庭の花など眺める事が出来る。清掃・整頓が行き届き、床暖房が設備され温・湿度も快適に管理されており、利用者はゆっくりお茶を楽しんでいる。テレビでは懐かしい歌やドラマが流れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・娯楽室のペースを設けており、お一人で過ごされたり気の合った方同士で過ごされたりと思いいに過ごせる居場所作りに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の延長のように安心して暮らして頂けるように、ご家族と相談し使い慣れた筆筒や位牌・昔の写真や飾り、馴染みの小物を置く事にて、ご本人が居心地よく過ごせるよう工夫している	居室にはベッド、洗面台が備わっている。掃出し窓の障子、押入れの襖などから和の趣きを感じられ、落ち着いた空間になっている。位牌、テーブルなど馴染みのものが持ち込まれ家族の写真や自作の書道など貼られてその人らしい暮らしがうかがえる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手すりがあり、トイレは洋式トイレに補助具・浴室の脱衣場にも補助具がついており残存機能を生かし出来る所が安全に自立した生活が送れるような環境作りに工夫している		